

umibe no mori

2026年3・4月号 VOL.155

春爛漫

医療法人精華園 情報誌

海^も辺^りの杜

ご自由にお持ち帰りください。



お世話になりました



3月末をもって退職された医局長:清水峻先生、鈴木富有先生、渡部武先生に海辺の杜ホスピタル在籍中の思い出をお聞かせいただきました。清水先生には9年間、鈴木先生には2年間、渡部先生には半年の間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

医局長 清水 峻 先生

01

海辺の杜での一番の思い出を教えてください

海辺の杜ホスピタルでの思い出をひとつ挙げるとすれば、やはりコロナ禍のある場面です。まだ何が正解かも分からず、病院全体が見えない緊張のなかにあった頃、私は原因のはっきりしない発熱に向き合っていました。少しでも手がかりを見つけたくて、全身の状態を追い、口の中までのぞき込むようにして、できる限り丁寧に診ていました。あのときはただ、目の前にあるものを見落としたりしたくない、その一心だったように思います。

けれどその後、それが院内初の新型コロナウイルス陽性だったと分かったとき、今度は自分のほうがずっと血の気が引くのを感じました。あの瞬間の青ざめるような感覚は、今でも忘れられません。振り返れば、あれはコロナ禍という時代の切実さそのものだったのだと思います。目に見えないものに向き合いながら、それでも目の前の患者さんを診るしかない。その緊張と迷いのなかで、皆で支え合いながら日々をつないでいたことが、海辺の杜で過ごした時間の深い記憶として残っています。

02

海辺の杜の好きなところはありますか

海辺の杜ホスピタルの好きなところを一言で言うなら、自由であることです。もちろん病院ですから、守るべき原則や責任はたくさんあります。それでもなお、「こうでなければならない」という一つの型に、すべてを無理に押し込めてしまわない空気が、この場所にはありました。

精神科の患者さんは、一人ひとりまったく異なります。同じ診断名であっても、苦しみ方も、回復していく道筋も、何に支えられ、何に傷つくのかも違います。そうした世界で本当に必要なのは、できあがった答えを当てはめるのではなく、その人に合う形をその都度探していくことなのだと思います。海辺の杜には、そのための余白がありました。誰かのやり方や視点を、はじめから排除するのではなく、まず受け止めてみようとする柔らかさがありました。

自由という言葉は、少し曖昧に聞こえるかもしれませんが、けれど私にとってそれは、患者さんの個性を大切にしながら医療を考えていくための、頼もしい土台でした。

03

海辺の杜ホスピタルに贈る言葉

海辺の杜ホスピタルには、これからも個性の高い精神科医療を大切にしていってほしいと思います。ここでは、画一的な治療がただ並べられているのではなく、患者さん一人ひとりに合わせて、現場ごとに考え、迷い、試行錯誤しながら医療がつけられていました。そのことに、私はこの病院の大きな価値を感じてきました。

個性を大切にすることというのは、必ずしも効率のよいことではないのかもしれませんが、答えのない問いを抱えたまま、その人の前に立ち続けることでもあります。それでも、精神科医療の未来は、そうした場所からしか生まれてこないように思います。

そして海辺の杜には、多様な考え方や実践を、すぐに「違う」として外へ押し出すのではなく、まず受け止め、必要なものを吸収していくこととする土台があります。その懐の深さは、この病院の大きな力です。これからもどうか、その柔らかさを失わずに、人を大切にする医療を重ねていってください。そこにはきっと、精神科医療のこれからにつながる光があるのだと思います。

04

最後に一言

生成AIの時代になって、知識は以前よりずっと簡単に手に入るようになりました。でも、精神科医療のなかで本当に大切なことは、教科書の頁をめくるだけでは見つからないのだと思います。目の前の患者さんの語りや表情、沈黙や揺れ、そのひとつひとつが、私に多くのことを教えてくれました。だから最後まで、私にとって本当の教科書だったのは、やはり患者さん達でした。

もしこの院内誌を読んでくださっている患者さんがおられるなら、心から感謝をお伝えしたいです。皆さんとの出会いが、精神科医としての私を育ててくれました。

そしてまた、職員の皆さんの何気ないひと言に、ふっと救われたことも一度や二度ではありません。本当にありがとう、あらためて深く感謝しています。海辺の杜でいただいたご縁を胸に、またどこかでつながる日を静かに願っています。

鈴木 富有 先生

01

海辺の杜での一番の思い出を教えてください

海辺の杜ホスピタルでの一番の思い出は、忙しいながらも患者様やご家族とじっくり向き合いながら診療に取り組んだ日々です。特に、治療に難渋しながらも、少しずつ症状が改善し、表情や言動に変化が見られたときのことは強く印象に残っています。ご本人だけでなく、ご家族の安堵した様子を目にしたとき、医療の意義を改めて実感しました。また、その過程で多職種の方々と意見を交わしながら支援方針を検討した経験も大きな財産です。一人では到達できない結論に、チームとしてたどり着くことの重要性を学びました。こうした積み重ねが、自分にとってかけがえのない思い出となっています。また、診療の過程で他の先生方から多くの助言をいただいたことも、大きな支えとなりました。自分では気づけなかった視点や判断の背景を学ぶ機会となり、臨床に対する理解が深まったと感じています。さらに、さまざまな考え方や価値観を持つ職員の方々と出会い、意見を交わす中で、自分の視野が広がっていく実感も得ることができました。

02

海辺の杜の
好きなのは
なんですか

海辺の杜ホスピタルの好きなのは、職種を超えて相談しやすい雰囲気がある点です。日常的に情報共有や意見交換が行われており、困ったときに一人で抱え込まずに済む環境が整っていると感じていました。医師、看護師、コメディカルの方々がそれぞれの専門性を尊重しながら関わっている姿勢は、非常に印象的でした。また、患者様に対して丁寧に向き合う文化が根付いている点も魅力だと感じています。忙しい中でも、単に業務としてではなく、その人を理解しようとする姿勢が随所に見られ、自分自身も多くを学ばせていただきました。このような環境で働けたことを大変ありがたく思っています。加えて、患者様一人ひとりの状況に応じて、柔軟に治療方針を検討できる点にも大きな魅力を感じていました。画一的な対応ではなく、その方にとって何が最も適切かを考えながら診療を進められる環境が整っており、安心して臨床に取り組むことができました。また、こうした柔軟性は個人の判断に委ねられるだけでなく、多職種と相談しながら進められる点にも意義があると感じています。

03

海辺の杜ホスピタルに
贈る言葉

海辺の杜ホスピタルにおかれましては、これまで培ってこられた温かい医療の姿勢を大切にしながら、今後ますます発展されることを心より願っております。医療を取り巻く環境は日々変化しており、求められる役割も多様化していますが、患者様一人ひとりに真摯に向き合う姿勢こそが、これからも変わらず重要であると感じています。海辺の杜ホスピタルで学ばせていただいたチーム医療の在り方や、相手の立場に立って考える姿勢は、多くの方々に受け継がれていくべき大切な価値だと思います。今後も地域に根ざした医療機関として、多くの方に信頼され続ける存在であり続けることを願っております。また、海辺の杜ホスピタルが地域の中で果たしてきた役割の大きさについても、日々の診療を通じて実感いたしました。医療機関としての機能だけでなく、患者様やご家族にとって安心して相談できる存在であり続けている点は、大きな強みであると感じています。今後もこうした信頼関係を基盤に、地域に根ざした医療を継続されるとともに、次の世代の医療者が成長できる場として発展されていくことを心より願っております。

04

最後に一言

在職中は多くの方々に支えていただき、心より感謝申し上げます。日々の診療を通して学んだことは、今後の自分にとって大きな糧となると感じています。新たな環境においても、ここで得た経験を大切にしながら、より良い医療を提供できるよう努めてまいります。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げますとともに、海辺の杜ホスピタルのさらなる発展を心より願っております。これまで本当にありがとうございました。在職中に得た経験や学びを今後の臨床に活かしながら、自身も成長し続けていきたいと考えております。これからも患者様や関係者の方々に誠実に向き合い、信頼される医療者であり続けられるよう努めてまいります。

渡部 武 先生

01

海辺の杜での
一番の思い出を
教えてください

元々私は人の顔や名前を覚えるのが苦手でした。海辺の杜ホスピタルでの仕事として2病棟の全患者さんを週に1度診察するようになっていて、最初は「こんな人数絶対に覚えられないだろう」と思っていたし、実際に人を間違えることも何度もありました。何度も顔を合わせているうちにだんだんと覚えて来て、その人のこれまでの事や、今の調子なんかも何となくわかるようになってきました。ユーザーさんからも話しかけてくれるようになったり、いろいろな思いを語ってくれることも以前よりは増えたと思います。やっている事としてはお話を聞いているくらいなのでどれくらいユーザーさんの助けになっていたかは分かりませんが、継続していくことで変化や成長といったものを実感できたように思います。

02

海辺の杜の
好きなのは
なんですか

医局の自由な雰囲気。海辺の杜ホスピタルの医局ではそれぞれの先生が思うように仕事をしていて、その様子を「個人事業主の集まり」と表現した先生もいるそうです。かといって放置されているわけではなく、分からないことがあれば教えてもらえるし、必要な時にはサポートもしていただけました。コメディカルの人達とも話しやすく、ユーザーさんの状況や変化について気軽に聞くことが出来ました。半年間気負うことなく仕事をすることが出来、大変やりやすい環境でした。

03

海辺の杜ホスピタルに
贈る言葉

スタッフ同士の距離感がいい意味で近く、とても過ごしやすい職場だと感じました。スタッフの士気も高く、今後もこの雰囲気を維持していけばいい病院としてあり続けることが出来ると思います。

04

最後に一言

半年間という短い期間でしたが、ありがとうございました。4月からは渡川病院で勤務を行う予定です。ここでの経験を活かして、ユーザーさんの視点に立つということを忘れずに励んでいきたいと思っています。





第14回 海辺のメモワール

院長 岡田 和史

輪ぬけ様の「不適切にもほどがある」思い出 目撃!猫捨ておばさん

前はぬいぐるみのラビちゃんの思い出を書いたところ、思いのほか反響が大きかったので、今回も小学生の時の思い出を書いてみることにしました。

毎年6月30日に、輪ぬけ様のお祭りがありますよね。今もお祭りの日は各地の神社がたくさんの人でにぎわっています。「輪ぬけ様」という呼び名はどうか高知県に独特のものらしく、一般的には夏越の祓(なごしのはらえ)と呼ばれ、茅(かや)で作った大きな輪をぐるぐるで心身を祓い清め健康や家内安全を祈る神事で、「茅の輪(ちのわ)くぐり」と呼ばれることもあるようです。

私も子どもの頃は毎年必ず家の近くの八幡宮に行っていました。そういうお祭りの時には神社の参道にたくさんの夜店が並び、色々な食べ物やおもちゃなどを売っていたり、また金魚すくいやミドリガメ、ヤドカリなども売っていました。

さて、これは私が小学2年生、昭和46年6月30日の輪ぬけ様の時の出来事なのですが、実はその時の日記が残っているので一部を原文のまま引用してみます。個人名は伏せてあります。

『きょうは、わぬけさまで、ぼくは、Aくんと、おかあさんと三人で、石たての八まんさまへ、行きました。(中略)おみやに、行くとちゅう、しん月ばしの、上から、川原を、見ると、しらないおばさんが、子ねこを、ぐるぐる回して、草の上になげたので、ぼくとAくんが「むごい、むごい」と大きな声でいうと、そのおばさんがいそいではの上まで来て、「おばさんところへかかってよその人がすてたがじゃ、知らんずつにいわんとってちょうだい」といって、ぶいとうしるをむいてさっさと、むこうへいきました。けれどすぐまた、ひっかえしてきて、もうーどおこりました。おかあさんが、「そんなことを、いうもでは、ありませんと、ちゅういしたところですが、どうもすみません。」とあやまってくれました。ぼくたちは、ちょっとこまりました』(以上、小学2年生の原文のままなので読みにくいのはご容赦ください。)

日記にはこの後、前年の台風10号で神社の木が減っていたことやお参りをした後、10円でおみくじを引いたこと、アイスを食べたり冷やしあめを飲んだこと、ヨーヨーを買ったことなどが書かれていました。

このおばさんが、子猫の首根っこをつかんでぐるぐるふりまわして捨てていたのは、方向感覚を狂わせて家に帰ってこないようにするためだったようですが、なんと昭和46年の出来事でした。これには後日談があり、日記は義務ではないのですが担任の先生に提出すると誤字を直したり、コメントを入れてくれたりしていたのですが、内容が面白いと思われたのか、給食時の校内放送で読むことになり、この猫捨ておばさん事件は、ちょうど創立百周年を迎えていた私の母校高知市立第四小学校中に広まったのでした。

ところで、昭和ならではと言えば、前述のミドリガメ(ミシシippアカミミガメ)です。当時は夜店の定番でしたが、アメリカ原産の外来種であり、現在では規制対象となっていて、夜店でもペットショップなどでも販売されなくなっています。とは言え、今でも家庭で飼育することは違法ではなく、実は我が家にも、なんと私が高校生の時に飼いだめたミドリガメが1匹元気に生存しているのです。名前は「カメ」。もうじき46歳になる計算ですが、今のところ元気で、夜店で買って来た時には体長3~4cmだったのが、今では25cmくらいまで成長しています。最初は2匹買ってきて飼っていたのですが、私の母方の従兄弟の息子(今は警察官だが当時は4~5歳のいたずら坊主)が1匹持ち出して逃がしてしまい、1カ月ほどしてから土間の隅で発見されたのですが、衰弱しており、結局死んでしまったのでした。生き残った方の1匹は、すくすくと成長し、5年目ごろに2階のベランダから庭に落下して一時意識不明(脳しんとう?)となったこともありましたが、無事に回復。飼いだめた時には、さすがにここまで長生きするとは予想していなかったのですが、最近では私の方が先に寿命を迎えるのではないかと心配になっているところです。カメに負けないように健康に気を配ってゆきたいと思います。



岡田家の一員、名前は「カメ」、体長25cm、推定46歳



第28回精神科総合研究会での発表を終えて

デイケアわくわく 今橋 亮介

第28回精神科総合研究会が高知会館にて開催され、多くの参加者が集まり活発な議論が行われました。特に海辺の杜ホスピタル職員の参加も多く、緊張感のある中で発表に臨む貴重な機会となりました。

他病院からはアルコール依存症治療プログラムの実践報告があり、病棟看護師主体での取り組みは非常に興味深いものでした。また、デイケア利用者の自立支援に関する発表では、知識の習得だけでなく継続的な実践と成功体験の積み重ねが重要である事を学びました。今回の研究会を通して、利用者の生活に結びつく支援の重要性を再認識しました。

今後も個々の能力に応じた段階的支援を意識し、地域生活の安定と生活の質(QOL)向上に寄与できるよう努めていきたいと思ひます。



第19回高知県作業療法学会に参加して

OT室 黒石 光瑠

第19回高知県作業療法学会に参加させていただきました。今回の学会は、「THIS IS OT〜リハビリとして作業療法士で在ること〜」というテーマにて開催されました。作業療法士の認知度は以前より上がっているとは感じるものの、何をしている職種なのか、理学療法士との違いが分からないと思われることが未だ多いと思ひます。今回は、その中で私たちの専門性を活かしながら、作業療法士として対象者と関わることに改めて考えさせられる機会となりました。

口述発表IIでは、「長期入院ユーザーの行動範囲拡大に向けたOTの関わり」というタイトルで発表もさせていただきました。やはり、対象者について考え、文章にまとめる作業や、それを他者にも伝えるという作業は、症例についての理解を深めることに繋がり、大変貴重な経験となりました。

今回の学会で一番印象深かったのは、ワークショップ①のLet'sコグトレです。コグトレとは、認知機能の低下により、生きづらさを抱える人々の支援をするための包括的なトレーニングの総称ですが、「自分らしく生きて行くための土台作り」とも言われていました。宮口英樹先生による講義でしたが、実際にコグトレのプリントを行ったり、棒を使用して体を動かしながら学ぶことができ、セラピスト自身がまずは楽しみながら行うということの大切さを実感できました。当院でもプリントでの実施は以前からしてはありましたが、今後は身体機能面へのアプローチもしていければと思ひました。

今回の学会で得た学びを臨床でも活かしながら、ユーザーさまに寄り添った支援を行えるよう今後も努めていきたいと思ひます。



令和7年11月3日
高知新聞(朝刊)掲載

私たちは日々の生活の中で、仕事や家庭、人間関係など、さまざまなストレスにさらされています。ストレスをなくすことは難しいですが、上手に付き合えば心身の健康を保つことができます。

セルフケアの工夫として、まず大切なのは「小さな休憩を取る」とです。数分間だけでも深呼吸をしたり、軽く体を動かしたりするだけでも気分は切り替わります。また、信頼できる人に気持ちを話すことも有効です。話をすると気持ちが整理され、自分一人では抱え込まずに済みます。

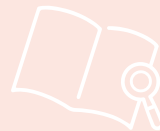
さらに、十分な睡眠や栄養の取れる食事、適度な運動はストレスに負けない体と心をつくります。セルフケアは「特別なこと」ではなく、毎日の生活習慣の中に取り入れることが大切です。それでも心身の不調が続く時は、ためらわずに医療機関の専門家へご相談ください。自分をいたわり、無理のない工夫を重ねることが、ストレスと上手に付き合う第一歩になります。

公認心理師
堀江 滋樹

ストレスとセルフケア

海辺のコラム

umibe
no
column



季節の変わり目は、「なんだか調子が悪い」という人も多いようです。季節に合わせて私たちの体も変化をしています。その変化に合わせて生活(衣類、食事、運動など)をすることを養生といひます。冬の養生のポイントは、防寒、睡眠、腎臓の働きを助ける、温かい食べ物での体温調節です。

体を温めるショウガは、漢方薬では、非加熱のものに加熱・乾燥したものを使用分けします。ジンゲロールとショウガオールという成分を含有し、それぞれの体の温め方が異なります。非加熱のショウガには主にジンゲロールが含まれ、これを加熱・乾燥するとショウガオールに変化します。どちらも血行を良くしますが、非加熱のものはジンゲロールを多く含むため、体内の熱を体の表面に導き、発散させる働きから、体を冷やしてしまうことがありますのでご注意ください。加熱・乾燥したものはショウガオールを多く含み、体を深部から温める作用があります。冬場や冷え性には、加熱・乾燥などの処理がされたものをお勧めです。

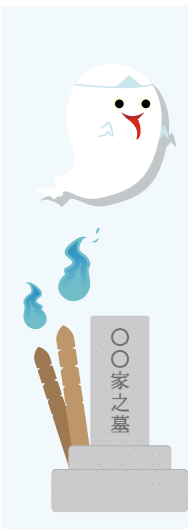
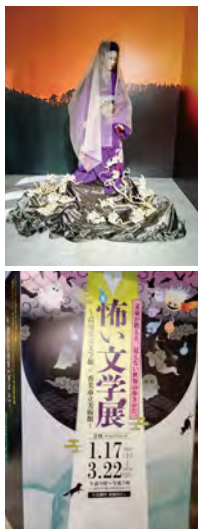
薬剤管理室室長
武田 真苗

冬の養生とショウガの話

令和7年12月1日
高知新聞(朝刊)掲載

1・2月は季節行事が盛りだくさん!

精神科デイケア「わくわく」で開催しているプログラムを紹介します



- 行く機会がめったにないのでいい機会になったと思います。文学も絵もとても楽しかったです。ツタダ
- 1回で観る量ではなかったのですが、自分で観に行きたいと思いました。怖いのにユアンスがいろいろあつて、ただただ怖いという意味だけじゃないと思いました。(B.K)
- ばけはけのモデルの小泉八雲の人生と妖怪のストーリーが良かったです。(マサミ)

数名の方に感想を伺いました

季節を先取りしたほかほか陽気の1月19日に高知県立文学館に行ってきました。怖い文学展は香美市立美術館とコラボしており、美術館が所蔵する絵画も鑑賞し、高知のことも知ることが出来ました。また、創作人形が飾ってあったり、加門七海先生が「怖い」をどう作っているか、どう捉えているかというところも知ることが出来ました。「怖い」をどう感じるか、人それぞれだと思いますので、皆さんも、ぜひ行ってみてください。

怖い文学展に行こう!

片岡

デイケア新聞

vol.116

院外レク初詣

市原

新年デイケア初日の1月5日、少し風が冷たい青空のなか9名のメンバーさんと初詣に行きました。お参りをした後は、おみくじを引いたりお守りを買ったりしました。その後、駐車場を少し南に歩いて季節の花を眺めながら長宗我部元親像周辺まで散策しました。「みんなでお参りできて良かった」「寒さもさわやかな気持ちになりました」「おみくじ小吉でしたが今年も頑張ります」など感想をいただきました。

2026年、良い一年でありますように!



文化交流会

上甲

1月28日県民文化ホールで開催された文化交流会に参加しました。

会場ロビーには各施設が作成したポスターが飾られ、人気投票が行われていました。当デイケアからは谷本さんがカラオケ部門に参加。出番前には緊張します」と言いながらも、堂々とした歌声を披露し、応援席に手を振ったりと余裕も感じられました。創作部門、カラオケ部門に出場された方は皆さん素晴らしい歌声を響かせ、観客席もそれぞれ趣向を凝らしたお面やうちわを使って熱のこもった応援があり、会場は熱気につつまれていました。当デイケアからもたくさんの方が応援してくれました。惜しくも入賞は逃しましたが、感想では「いい経験ができました」と自信に満ちた表情で答えてくださいました。

お楽しみ抽選会では、応援にかけつけてくれた中村さんが見事当選しました。

節分お参り&節分祭

片岡

2月3日が平日ということもあり、若宮八幡宮に無病息災をお願いしてきました。午後から参拝したのですが、イカ焼きやりんご飴などの屋台が出ており、たくさんの人でした。厄除けのお守りも面白い、歳の数だけお豆さんを拾って、人型の紙で悪いところを撫でて、息を吹きかけるといいこともやりました。来年も平日みたいなので皆さんと一緒に参りしたいと思います。その後、節分祭ということで、デイケア恒例の福男福女から福のおすそ分けをしました。昨年1名だけでしたが、今年も1名だけだったので、スタッフ2名と福女のメンバーさんと餅投げのようなことをしました。人が密集するのでコロナで中止になり、感染対策が緩んだ後は雨で開催出来ていなかったのですが、すごく久しぶりでした。盛り上がりました!メンバーさんが喜んでくれたことが一番良かったです! ♪



院外レク高知城歴史博物館

片岡

2月9日に高知城歴史博物館で開催されている、企画展「春を寿ぐくめでたきかざり」祈りのかたち」を鑑賞してきました。新春を祝うおめでたいモチーフやお正月らしい資料、山内家に伝わるひな人形やひな道具が展示されていました。初公開資料もあり、豪華絢爛なひな人形もあり、見所が多くありましたが、個人的には和歌集の豆本があり、すごく気になりました☆これは展覧会とは別ですが、高知城歴史博物館は今まで英語表記はなかったと思います。解説に英語表記がついていて、最近多い外国の方にも対応しているなと感じました。

参加したメンバーさん数名に感想をうかがいました

- 高知県の江戸時代の暮らしとかが分かってよかったです。(I.M)
- 印象に残っているのは実寸の1月30日の高知城の骨組み。見えて良かった。山内家の歴史は高知城と共にあった気がしました。(グレゴリー)



看護就職フェアに 行ってきました



3病棟主任 島田 瑞規

今回初めて看護就職フェアに参加してきました。過去の自分を振り返ってみると、看護就職フェアの案内が来ても、特に興味を示さずスルーしていた記憶があります。しかし今回、人生で初めて会場に足を運んでみて、非常に沢山の看護学生の方や、臨床経験者の方がいることに驚きました。会場には高校中の病院やクリニックなどが各自ブースを構えて、興味をそそるような趣向を凝らして人々の注目を集めており、フェアの全体説明が終わると、皆一斉に移動を始めますが、予め目星をつけていたのか、規模の大きい病院へ皆さん流れて行きました。ただ、20分程度経過したところで来年卒業という看護学生さんが自ら当院のブースへ足を運んでくれました。聞くと、当院に実習できていたらしく、当時2病棟で実習をしたようで、精神科は「なんでそうなる?」といった出来事が起こるため、非常に面白さを感じたと熱く語ってくれました。そんなこんなで10人弱くらいの方が当院のブースへ足を運んでくれました。最初に来てくれた看護学生さんとの話を通じて感じたのは、実習という実際の現場で、実際に働いている職員や入院しているUと触れ合うことが、どれだけその人の今後の就職に対する思いに影響するかということです。今後も実習生を受け入れることになるでしょうが、自分が初めて就職するならどういった職場が良いだろうという思いを念頭に実習に関わることで、今後当院へ興味を持ってくれるのかなと思いました。

医療法人 精華園 海辺の杜ホスピタル  海辺の杜
ホスピタル

あなたらしい 看護がきっと見つかる

／ ころを支え、地域とともに歩む看護を
私たちと一緒に



急性期から慢性期まで一貫した看護を実践し
地域での暮らしを支える支援を大切にしています

224床 急性期～慢性期

訪問看護・精神科デイケア・認知症デイケア

地域とつながる看護

- 入院から在宅まで学べる
- 切れ目のない支援

安心の教育体制

- プリセプター制度
- 奨学金制度あり

お問い合わせはこちら 088-841-2288 学年不問・見学のみも歓迎

NEW FACE

ニューフェイス



たむら あきひと
田村 明仁

- 1 認知症デイケアほのか送迎運転手
- 2 両親の介護をきっかけで少しでも勉強したいと思いました。
- 3 40年間家庭品、化粧品の販売管理やマーケティングをしてきて、マーケティングでは大人用のオムツを担当しており、介護関係には興味を持ってました。両親等の介護に役立てたいと思います。

ちだ まさる
千田 勝

- 1 5病棟 ナースアシスタント
- 2 9年前に海辺の杜ホスピタルのナースアシスタントを1年間パートで勤務しました。その後高齢者の認知症介護施設の勤務を経て、再入職しました。
- 3 12月より5病棟でナースアシスタントのパートタイムで勤務しています。御指導いただきこれまでやってきました。命に関わる大切な仕事を早くからだに覚え込ませてしっかり仕事をしたいと思います。ユーザー様との会話を心をこめて行きます。以前、宙のホールで歌いました。

おかざき みな
岡崎 美奈

- 1 2病棟 看護師
- 2 私は母親の勧めで何となくかっこいいなというイメージで看護師になりました。
- 3 1月に就職し2病棟勤務が始まりました。バレーボールや登山で鍛えた体力は衰えており日勤業務をこなすのがやっとですが優しいスタッフの指導のもと、日々精進しながらユーザー様が安心して治療ができるよう取り組みたいと思います。

とくひさ かずひろ
徳久 和宏

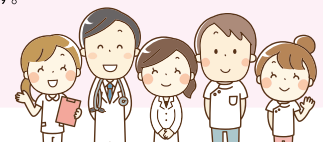
- 1 作業療法室 作業療法士
- 2 高校生の時に「リハビリテーション」という言葉を調べて理学療法士と作業療法士の存在を知りました。調べながら「楽しそう!」と直感で作業療法士になりたいと思いました。
- 3 三度の飯よりウィスキーが好きです。晩酌は主に水割りです。今後は精神科領域の作業療法について知見を深め、日々の業務で活用し、ユーザー様へ還元できるように自己研鑽に努めたいと思います。

あべ てつや
阿部 哲也

- 1 管理部 診療情報管理室
- 2 以前の仕事での経験を活かす事が出来ると考え、選択しました。
- 3 普段行う皆様の業務が、快適不断に行える様、陰ながら尽力させていただきます。未熟なため至らぬ点が多々ありますので、御指導御鞭撻のほど、何卒よろしくおねがいます。

かわむら あおい
川村 あおい

- 1 1病棟 看護師
- 2 自分の自立と安定のためです。
- 3 2月に入職しました。精神科は初めてで毎日色んな出来事があるって驚きと学びと日々奮闘中です。1病棟の皆さんが優しく教えてくれるので早く覚えて頑張っていきたいと思っています。



海辺の杜 もり
ホスピタル
医療法人 精華園

〒781-0270 高知市長浜251
TEL 088-841-2288 FAX 088-841-2280
E-MAIL info@umibeno-mori.com
URL https://www.umibeno-mori.jp/
■理事長 町田照代 ■院長 岡田和史

診療科目	診療時間	受付時間
●精神科 ●心療内科	月～金 AM9:00～PM12:15 PM1:15～PM 4:45 土 AM9:00～正午	月～金 AM8:30～PM 4:30 土 AM8:30～AM11:45

初診予約専用ダイヤル
TEL 088-841-2409

デイケア	相談室
●精神科デイケア 「わくわく」 TEL 088-841-2081 ●重度認知症デイケア 「ほのか」 TEL 088-841-0372	TEL 088-841-2016 FAX 088-841-2286

棧橋みどり
クリニック
医療法人 精華園

〒780-8015 高知市百石町2-8-8
TEL 088-878-9310 FAX 088-833-3602
E-MAIL info@san-mido-clinic.com
URL http://san-mido-clinic.com/
■理事長 町田照代 ■所長 山崎浩

診療科目	診療時間
●心療内科 ●精神科	月・火・木・金・土 AM9:30～PM12:30 PM2:00～PM 6:00* (※金曜日 PM5:00 土曜日 PM4:00) 水 AM9:30～PM12:30

受付時間	休診日
月・火・木・金 AM9:30～PM12:00 PM1:30～PM 5:30 水・土 AM9:30～PM12:00	日・祝日 水曜午後 隔週土曜

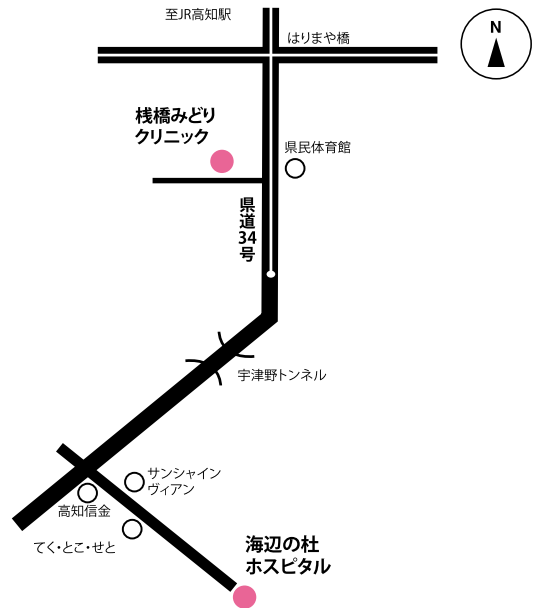
関連施設

訪問看護ステーション
うみべ
〒780-8015
高知市百石町2-8-8
TEL/FAX 088-833-1177



診療実績

2026.1/1～1/31 (のべ)	2026.2/1～2/28 (のべ)
海辺の杜ホスピタル ・外来総数 2,476人 ・うち新患外来総数 26人 ・入院総数 21人 ・うち新患入院総数 5人 ・退院数 27人 ・精神科デイ利用者数 452人 ・ショートケア利用者数 49人 ・重度認知症デイ利用者数 245人	海辺の杜ホスピタル ・外来総数 2,302人 ・うち新患外来総数 10人 ・入院総数 24人 ・うち新患入院総数 3人 ・退院数 24人 ・精神科デイ利用者数 395人 ・ショートケア利用者数 63人 ・重度認知症デイ利用者数 215人
棧橋みどりクリニック ・外来総数 527人 ・新患外来総数 32人	棧橋みどりクリニック ・外来総数 511人 ・新患外来総数 25人
訪問看護ステーションうみべ ・訪問件数 459件	訪問看護ステーションうみべ ・訪問件数 436件



お寄せ下さい

院内誌に関する、ご意見・ご感想、ご要望、投稿記事等、どんな事でも構いません。お気づきの点がありましたら、思いのままに下記までご投稿下さい。

提出先: Myweb Mail → **新規作成** → **アドレス帳** → **カスタムグループ** → **院内誌編集係** → **メール作成** まで。



編集後記 (編集長: 橋田)

4月になり、海辺の杜にも春の気配が満ちてきました。新人さんの初々しさに、思わず私も背筋が伸びます。毎年この時期になると頭も机も整理整頓して新年度を迎えるぞ!と決意するのですが、今日も机の上は春と一緒に書類が満開。おそらく散ることのないこの書類とともに今年度も楽しい院内誌づくりに努めてまいります。皆さまにとって、穏やかで心と春となりますように。

今月の表紙

この作品は、当院のOT(作業療法)のプログラム(創作活動)で山崎由衣さんが制作した『春爛漫』という作品です。色紙を折ったり切ったカラフルなもので、病棟のサロンの壁面に飾られています。ご本人の作品の思いは「みんなに春を感じてもらい、明るい気持ちになってほしいです。」とのこと。やさしくてほのぼのした雰囲気は、見る人をそうさせてくれますね。

